

今月 11 日で震災から 7 年が経ちますが、毎年恒例となった感のある行事が今年も行われると思うと気が滅入ります。犠牲者の慰霊祭、追悼式。大槌での式典は死んだ役場職員の事だけ、という感じで、報道でも必ずと言っていい程、「震災当時の町長を始めとして

40 人の役場職員が犠牲になった」と言います。それ以外の犠牲者の事には余り触れないのが信じられません。それと、式典に国や県のお偉方を招待する必要はありません。彼らは震災犠牲者の遺族なのか？違うでしょう！誰の為、何の為の式典なのか！？

津波で致命的な被害に遭った旧役場庁舎を震災遺構として保存するか、それとも解体するかで揉めていますが、私は絶対に解体した方がいいと思います。震災遺構として保存し、観光客等にアレを見せながら**自称語り部**の大袈裟な話を聞かせて震災の何が伝わるのでしょうか。多数残っている津波の映像を DVD に纏めて防災教育等の機会に見せれば津波の凄さ、怖さ、悲惨さ、等々、全てが伝わると思います。そうすれば毎年、維持管理費が掛かる事も無く、震災被害の殆どが伝承されていく。余計な話を継ぎ足しながら話がどんどん大きくなって妙な伝説？が残ると再度、大きな被害に遭いかねません。

そもそも町の災害対応マニュアルでは、巨大地震が発生し、津波警報が発令された場合は**高台にある中央公民館に災害対策本部を設置する事になっていた**のです。にも拘らず、**庁舎前の駐車場で対策本部を設置しよう**と、テント設営中に津波に襲われたのです。まだあります。震災時、津波が来る寸前まで町民は、江岸寺というお寺に避難していました。そして、その多くは津波に呑み込まれてしまったのです。その後役場は、**江岸寺は避難場所に指定していなかった**という事を渋々明らかにしました。それなのに役場は町の彼方此方に江岸寺への避難誘導看板を多数設置していました。毎年恒例の**津波避難訓練でも江岸寺を避難場所として使用**していました。私の住んでいた地区も避難場所として江岸寺が指定され、町報等でも広報、周知していました。結果から言えば役場が住民を死地に誘っていたと言えるところだと思います。

あの時、タイミングが悪ければ私達も高台の中央公民館に行かず、この江岸寺に避難して津波に呑み込まれて死んでいたかもしれません。私達が今、生きているのは運が良かっただけの事だと思います。でも、役場の危機管理能力が皆無だった為に犠牲になった人がいるのも事実です。人為災害とでも申しましょか、そういう事も全て認めた上で震災遺構の話をするならいいのですが、自分達の責任は認めず、責任転嫁ばかり。そんな連中に教訓を語る資格はありません。因みに現在、被災地では各メディアが取材に入っており、撮影しているのを多々見掛けます。11 日前後に放送される特集番組で誰が何を言うのか。もし大袈裟に嘘を言うなら絶対に暴露してやります！

もう一度言います。私は旧役場庁舎解体に断固賛成です。

岩手県大槌町 小川孝幸